



能登半島地震におけるJMAT活動について

(令和6年度関西医師会連合常任委員会)

公益社団法人日本医師会副会長 茂松 茂人

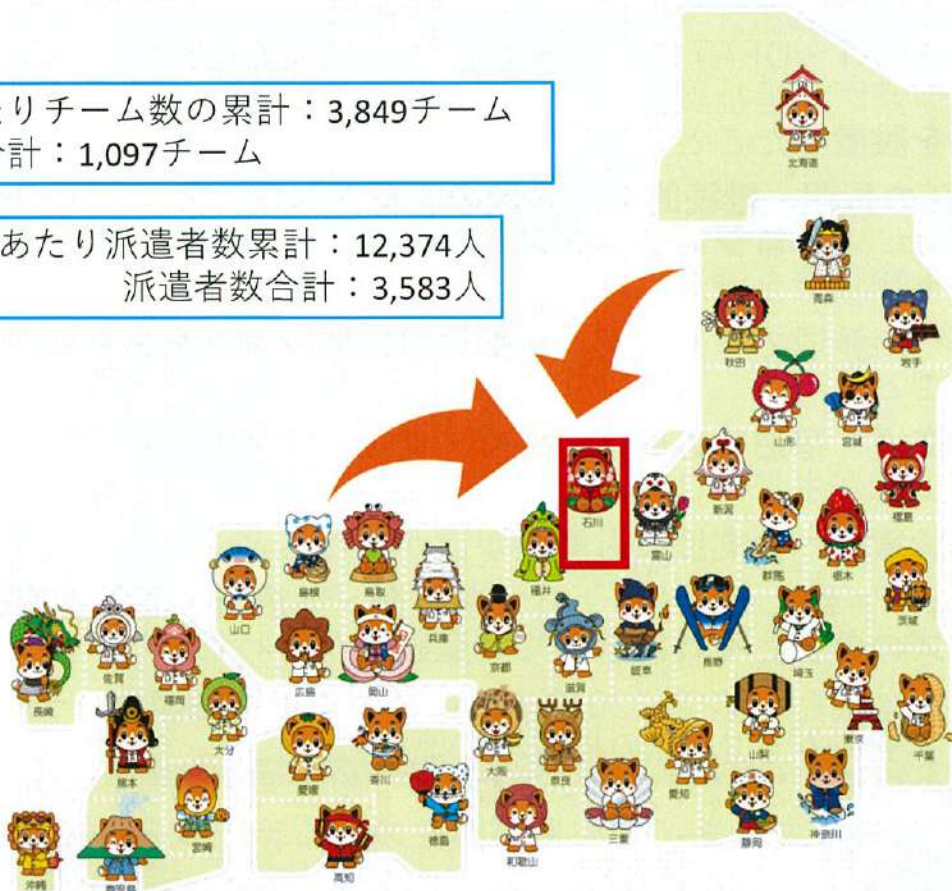


令和6年能登半島地震 JMAT活動

～全都道府県医師会から石川へJMATを派遣～

1日あたりチーム数の累計：3,849チーム
チーム合計：1,097チーム

1日あたり派遣者数累計：12,374人
派遣者数合計：3,583人





令和6年能登半島地震 JMAT派遣の流れ

- 1月1日、災害対策本部の設置
- 1月3日、先遣JMATの派遣
- 3日、厚生労働省からJMAT派遣依頼（4日には石川県知事からも要請）
- 1月16日、JMAT能登北部調整支部、金沢以南調整支部の設置
- 1月16日、「重装JMAT」の派遣開始
- 2月16日、今後のJMATの派遣・活動方針の提示：標準的なJMATを主体、特に3月以降は継続派遣されている都道府県医師会チームを基本
- 3月21日、今後のJMAT派遣体制について提示：JMAT調整支部を石川県JMAT調整本部に集約

5月31日、派遣終了

- 5日、正式な派遣決定、石川県医師会JMAT派遣開始
- 6日、県外からの派遣開始
- 派遣初期から統括JMATとそれを支えるロジスティクス活動の開始
- 7日、JMAT調整本部の設置。その後、能登中部等の各調整支部を順次設置
- 22日、DICTとの連携をJMATを編成する都道府県医師会に周知
- 30日、JMAT派遣体制の再構築：可能な限り同じ都道府県医師会による同一地域への継続派遣
- 2月18日、日本災害医学会との協定に基づく災害医療コーディネーションサポートチームのJMATの枠組みでの派遣開始
- 5月、被災地ニーズに応じて週2回程度の高齢者施設への派遣や、ピンポイントで避難所等の支援の実施
- 5月28日、日本医師会災害対策本部会議において、一般のJMAT派遣の終了を決定

2



令和6年能登半島地震におけるJMAT活動の特色

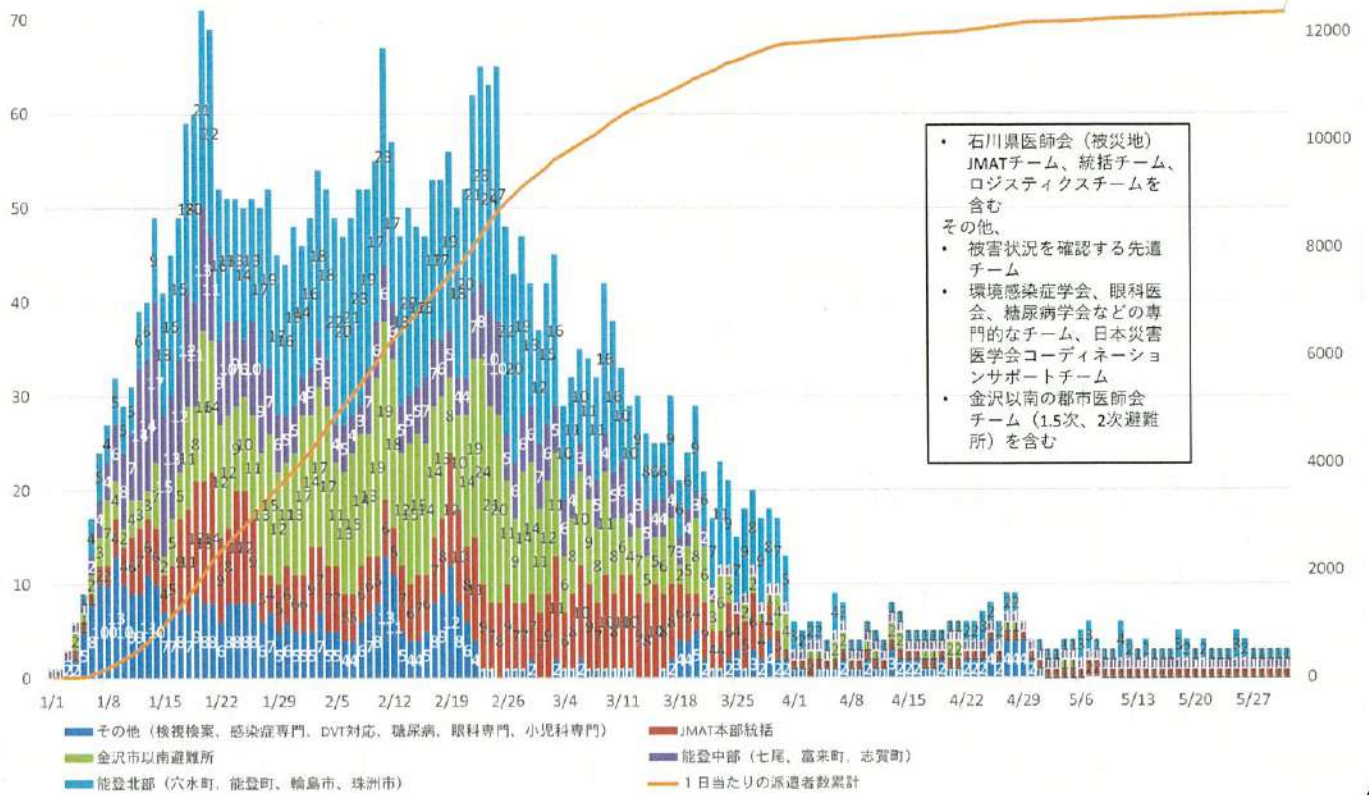
- ✓ 県庁内（DMAT・DPATのほか様々な保健・医療・福祉チームの拠点が置かれた保健医療福祉調整本部）に、JMATの調整本部を、また各所に調整支部を設置したこと。
- ✓ 統括JMATの長期・継続的で、多数の派遣をしたこと。都道府県医師会事務職員等によるロジスティクスチームを急遽創設したこと（日本医師会からも事務職員を派遣）。
- ✓ 1つの県への派遣ではあるが、全都道府県医師会から多数のチーム派遣になったこと。
- ✓ 被災地の交通・宿泊等の事情が悪く、支援ニーズの把握やチームの派遣に大きな支障が生じたこと。
- ✓ 被災地の診療所への支援にも重点が置かれたこと。
- ✓ JMAT独自の情報共有手段により、避難所・診療所・高齢者施設等の支援ニーズの分析とそれに基づく派遣調整が行われたこと。
- ✓ 日本災害医学会との協定（2018年）に基づく災害医療コーディネーションサポートチームをJMATの枠組みで派遣したこと。また、日本環境感染学会との協定（2022年）によるDICT（災害時感染制御支援チーム）もJMATに登録したこと。他にも専門性のあるチームをJMAT登録。

3

令和6年能登半島地震における JMAT派遣チーム数（2024年5月31日）

1日あたりチーム数の累計：3849チーム
チーム合計：1097チーム

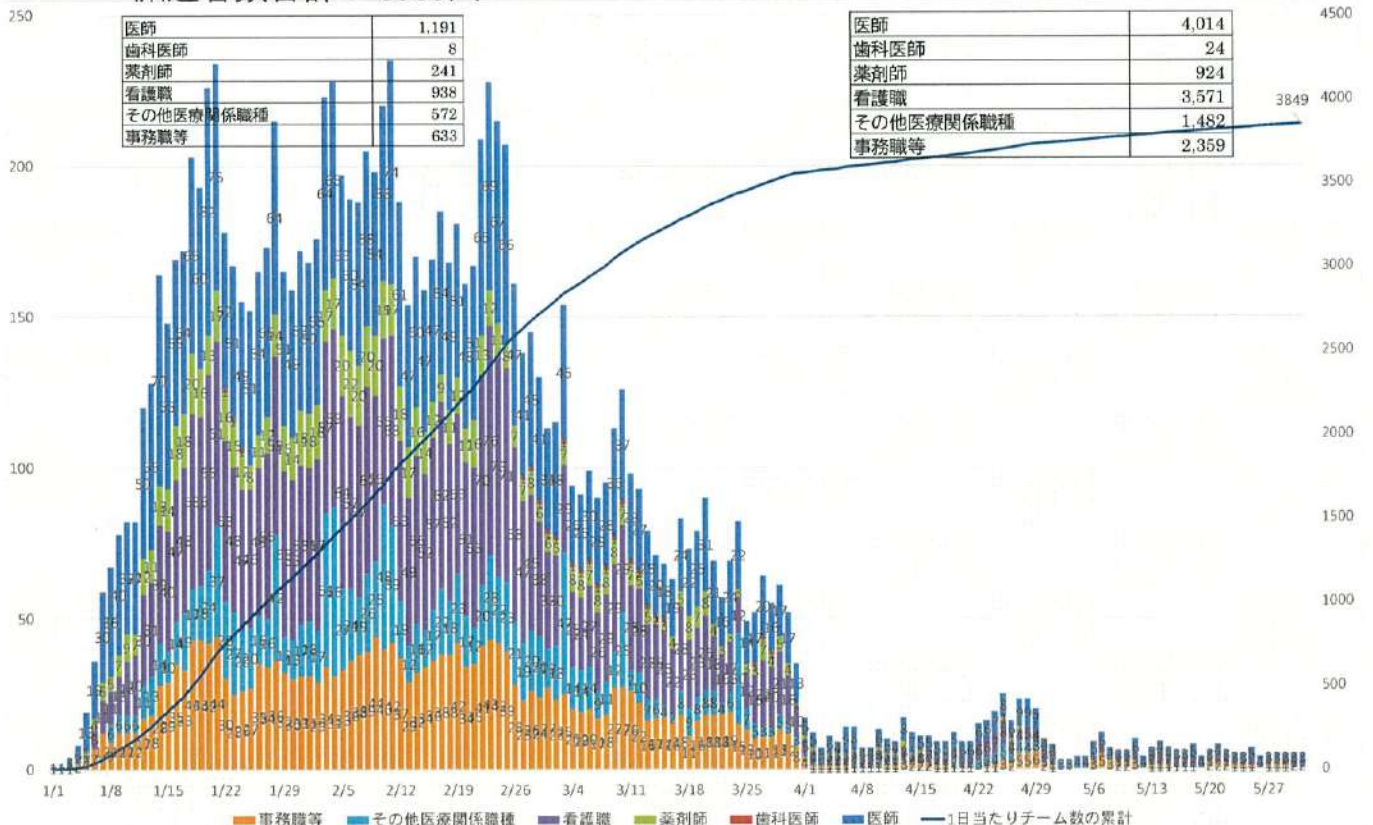
1日あたり派遣者数累計：12374人
派遣者数合計：3583人



令和6年能登半島地震における JMAT職種別派遣者数（2024年5月31日）

派遣者数合計：3583人

1日あたり派遣者数累計：12374人



今回のJMAT活動における課題について その1

JMATの統括機能の強化

- 災害初期のPUSH型派遣や他県からの統括JMAT受け入れの共通認識の醸成
- 統括JMATを担う人材の養成・確保
- 統括JMATへの支援（ロジ、ICT等）
- 被災地の医師会、JMAT調整本部と日本医師会との連絡調整の深化（今回は、途中から定期ミーティングを実施。今後は、常に情報連携体制を維持し、何らかの問題が発生した時には組織的に対応することが重要）
- JMAT活動は統括JMATやコーディネート機能の下で活動することの周知徹底 その他

JMATを含む医師会の災害対応活動の広報、周知徹底

- 今回は、過去に例のない動画制作、YouTube展開を実施
- 医師会活動に関心が低い方々に対する周知活動（9月21日「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」第3回シンポジウムでは、能登半島地震対応を取り上げ）
- 被災地の都道府県医師会、郡市区医師会の活動の広報支援
- 国・都道府県行政におけるJMATや医師会の位置づけ強化

6

今後について

- 1. 令和6年能登半島地震JMAT活動報告会（8/9）**
（都道府県医師会担当理事連絡協議会）の開催、協議の実施
〜 こんどは能登半島地震のJMAT活動報告会を開催しよう。
- 2. 日本医師会「救急災害医療対策委員会」において、上記1のJMAT活動報告会を踏まえたJMATのあり方に関する検討**
- 3. JMAT要綱（日本医師会「防災業務計画」別添）及び災害医療支援業務計画の改正、JMAT研修（基本編、統括編、ロジスティクス編）、都道府県医師会との防災訓練（災害時情報通信訓練）、災害関係シンポジウム等の実施**
→ 上記1・2の協議・検討を踏まえ、いずれも2024～25年度にかけて実施

7

令和6年能登半島地震 JMAT 活動報告会

(都道府県医師会 JMAT 担当理事連絡協議会)

日時：2024年8月9日(金) 13時～16時30分
場所：日本医師会館小講堂・ホール(ハイブリッド)
挨拶：松本吉郎 日本医師会会長

- ① 能登半島地震対応とそこから得られた教訓(概括)
 - ・ 日本医師会からの JMAT 活動報告、今後の基本的な方針
 - ・ 受援医師会、被災地 JMAT としての報告
 - ・ 被災地に寄り添い、支援ニーズの分析や状況変化に応じた JMAT 派遣調整
- ② これからの先遣 JMAT、統括 JMAT の機能
 - ・ 「災害時、被災医師会が、日本医師会が派遣する他都道府県医師会編成の先遣・統括 JMAT を受け入れること」についての共通認識の醸成
 - ・ 日本医師会「救急災害医療対策委員会」の役割。統括 JMAT 研修修了者、災害医療コーディネーター研修の都道府県医師会修了者、統括 JMAT 経験者の活用
 - ・ 今回の活動を踏まえた統括 JMAT 機能の強化、統括 JMAT 研修の見直し
 - ・ 統括 JMAT を支えるロジスティクスチームの位置づけ
- ③ 専門的な機関等との連携
 - ・ 日本災害医学会(災害医療コーディネーションサポートチーム)
 - ・ 日本環境感染学会(DICT: 災害時感染制御支援チーム)
 - ・ 他の専門的な機関・団体、専門家との連携のあり方
- ④ 今後の課題例
 - ・ 次世代の災害医療対策 ※6月9日に関連シンポジウムを開催
 - ・ 南海トラフ巨大地震・千島海溝/日本海溝地震、首都直下型地震
 - ・ 人口変動、地方の過疎化進展や大都市圏の高齢化加速と災害対応への影響
 - ・ 大規模災害における感染症対策
 - ・ 災害多目的船、病院船その他

総括：茂松茂人 日本医師会副会長

8

能登半島地震 JMAT 活動広報記事、動画

ホーム→医師のみなさまへ→診療支援→令和6年能登半島地震関連(医療機関、医師会向け)

https://www.med.or.jp/doctor/sien/s_sien/011495.html



日本医師会
公益社団法人 日本医師会
公式チャンネル

日本医師会
Japan Medical Association

日本医師会ホームページ 公式YouTubeチャンネル



被災者の一人一人に声をかけながら
健康状態を確認していく





日本医師会災害医療チーム
(JMAT) とは



9

今回のJMAT活動における課題について その2

JMATの安全確保：道路の陥没、縦割れ。事故時の連絡手段確保困難、宿泊施設の手配困難

- 従来、JMAT要綱では「JMAT参加者の安全確保は、JMAT活動上の優先事項」と位置づけ。統括JMAT研修では、JMATの一時待機・撤収させるか否かの判断が求められる場合もありうることを説明。
- JMAT派遣時の情報通信手段の確保、研修・訓練、その時の被災地の状況に応じた迅速な情報提供（夜間走行の禁止、衛星携帯電話の携行、必要な装備）について検討していく。
- 初期対応ができるJMATのあり方、今回の「重装JMAT」のような類型の是非について検討していく。

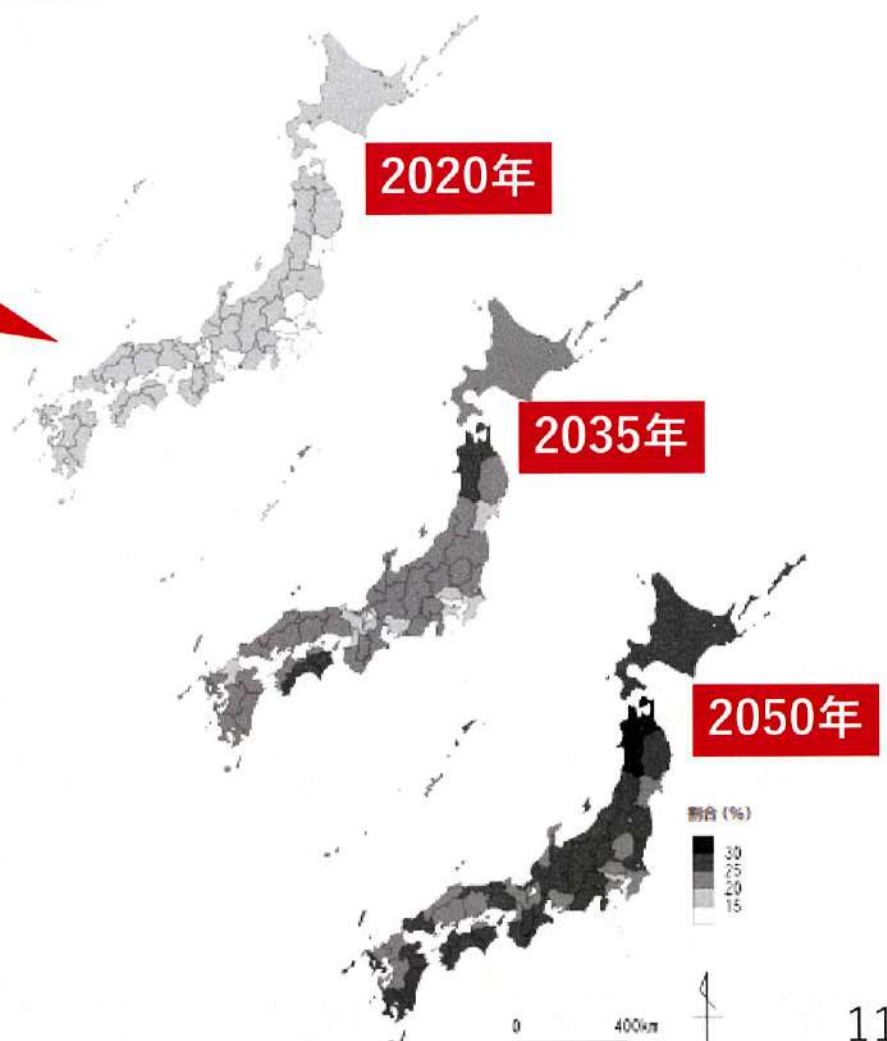
過疎化・高齢化が進行し、アクセス困難な地域へのJMAT派遣

- 南海トラフ巨大地震、千島海溝・日本海溝地震の想定被災地への支援について検討、該当都道府県医師会・郡市区医師会との連携、防災訓練（災害時情報通信訓練）の実施
- JMAT研修や訓練を通じた介護・福祉分野のニーズ把握や関係者との協力の啓発、介護・福祉への支援上の課題の抽出、災害に備えた介護・福祉関係団体や関係省庁との連携の強化

10

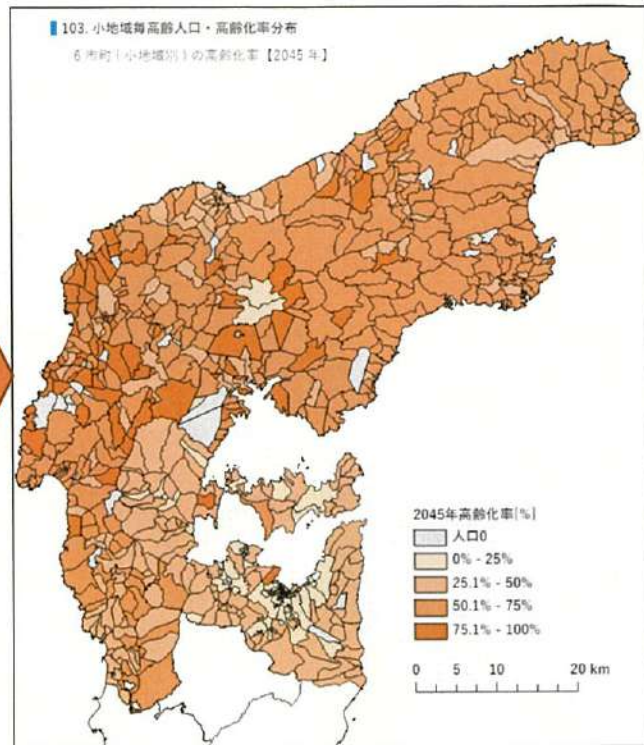
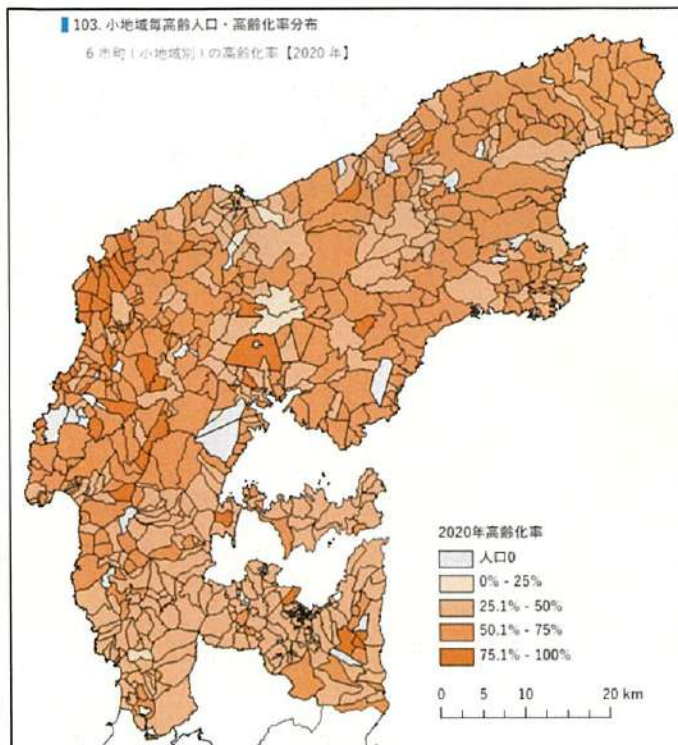
将来推計人口 (2023年公表)

都道府県別 75歳
以上人口の割合



11

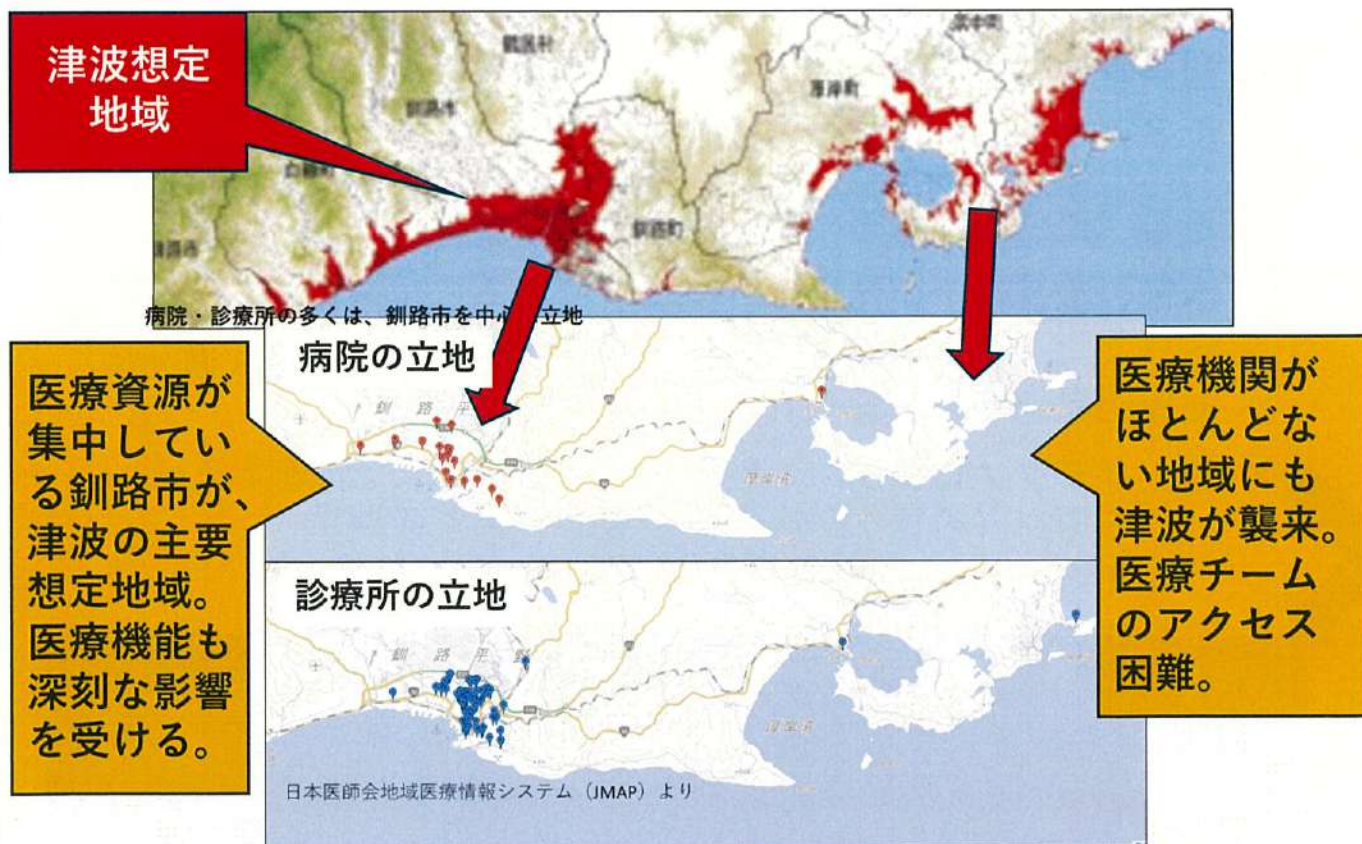
(参考) 能登北部地方の高齢化率



石川県創造的復興プラン（仮称）マップデータ集より

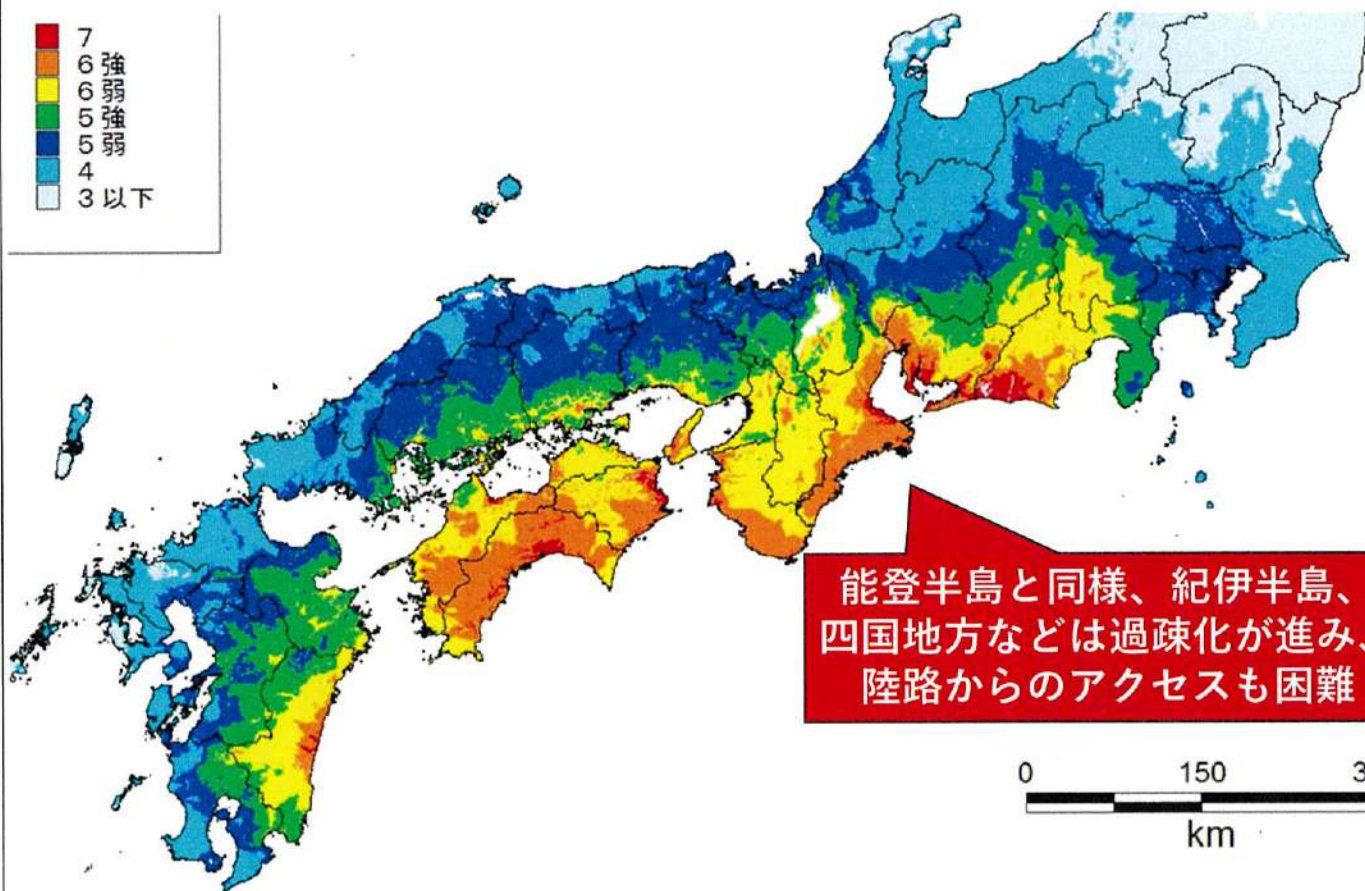
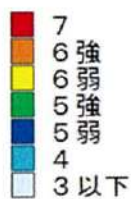
12

例) 千島海溝地震の津波想定と医療提供体制



13

南海トラフ巨大地震の想定震度



能登半島と同様、紀伊半島、四国地方などは過疎化が進み、陸路からのアクセスも困難

0 150 300
km

14

次の大規模災害に向けて

- ✓ 超高齢社会の進展 → 災害時要配慮者の増大
- ✓ 少子化による人口減少と過疎化の進行
→ 地域の医療資源の縮小、（医療に限らず）支援の担い手不足、道路や水道等のインフラ劣化
- ✓ 水害の激甚化、頻発化
- ✓ 南海トラフ巨大地震の被災地には、能登半島のような過疎地、支援困難地が多く含まれる。
- ✓ 新たなテクノロジーの活用：ドローン、ICT、水循環など
→ 医療以外の様々な専門家・専門機関との連携

以上の視点で、**医師会の組織力強化を果たす。**
それは、地域に根ざした医師会活動を強化し、各地域の医療危機を克服することにつながり、最終的には災害に対する医療のレジリエンス（強靭さ）を強化することに貢献する。

そのためには

15

かまやち さとし (釜范 敏) プロフィール



伝える。
届ける。

日本医師会 副会長・医師
日本医師連盟推薦

かまやち さとし

討議資料

かまやち さとし

釜范 敏

プロフィール

- 1953年 7月5日 群馬県高崎市生まれ 巳年、かに座
- 1972年 東京教育大学附属 駒場高校(教駒)
現)筑波大学附属駒場高校 卒業
- 1978年 日本医科大学医学部卒業
- 1978年 日本医科大学付属第一病院 小児科 入局
- 1988年 小泉小児科医院 院長
- 2005年 高崎市医師会 会長
- 2011年 群馬県医師会 参与
- 2014年 日本医師会 常任理事
- 2020年 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議構成員
新型コロナウイルスアドバイザリーボード構成員
- 2023年 新型インフルエンザ等対策推進会議委員
- 2024年 日本医師会 副会長

医師/医学博士/日本小児科学会/
日本小児科医会/日本小児神経学会 会員
趣味: 阿波踊り(上州高崎どですけ連 2001年より)、茶道

公益社団法人 日本医師会
〒113-8621 東京都文京区本駒込2丁目28番16号
TEL: 03-3946-2121(代)

ご清聴ありがとうございました

大規模
イベント
医療・救護
ガイドブック 改訂
第2版

日本医師会シンポジウム **LIVE配信**
次世代の
災害医療
2024年 6月9日 SUN. 10:00-17:00

市民公開講座
災害時の
トリアージを
理解しよう

新型コロナウイルス
感染症時代の
避難所
マニュアル



災害時通訳サービス

日本医師会 100周年 関東大震災 100年
日本医師会 関東大震災100年特設サイト
関東大震災発災から100年
未来に生かされるべき教訓

